

ワンパス方式インクジェットヘッドのアセンブル技術を開発 ～高精細薄型ヘッドにより、高品質と高生産性を両立～

大日本スクリーン製造株式会社(本社：京都市上京区)のメディアアンドプレジジョンテクノロジーカンパニー(社長：藤澤 恭平)はこのたび、高精細で安定した印刷を実現する、ワンパス方式の薄型UVインクジェットヘッドのアセンブル技術を開発しました。

近年、ラベル、建材、各種パッケージなど、商業印刷以外の分野においても、POD(プリント・オン・デマンド)に対する多品種、少ロット、高品質化への対応が求められており、紙以外の素材に直接印刷できるUVインクジェット印刷への需要が高まっています。そして、UVインクジェット印刷の活用分野の拡大には、従来以上に高精細、高品質、高生産性を安定して実現できる技術が不可欠となっています。

当社は、このような動向にいち早く応えるため、「より美しく、より小さく」をテーマに、高精細で安定性の高い600dpi薄型UVインクジェットヘッドのアセンブル技術を開発。ヘッドの薄型化により、UVインク液の着弾からUV照射までの時間を短縮できるため、インクのにじみや、フリンジの少ないシャープな印字が可能になりました。また、600dpiヘッドによる高精細印字により、細かな文字の可読性を向上させるとともに、極細線のモアレの発生を低減。さらに、インクをヘッドに循環させることにより、ヘッド内部とインクの温度を一定に保つ、新開発の「インク循環システム」を採用するなど、印刷品質と生産性を高い次元で両立する技術となっています。

当社は、今回開発したUVインクジェットヘッドのアセンブル技術を製品へと展開することにより、ヘッドを含む印刷機能の提供を推進し、PODへの流れが加速する印刷業界における新たなブランドの構築と強化を図ります。そして今後も、新しい印刷ビジネスのスタイルを提案し、「Creating a Future in Print」のテーマの下、お客さまとの「未来共有」に努めていきます。

* この技術は、2008年5月29日から6月11日までドイツ・デュッセルドルフで開催される国際総合印刷機材展「drupa 2008」でご紹介します。

< drupa 2008 出展概要 >

「drupa 2008」は、世界の印刷関連機材の4大展示会(英国：IPEX、米国：Print、日本：IGAS)の中で最大の規模を誇り、4年ごとにドイツで開催されます。今回は、17万平方メートル強のスペースに、45を超える国々から1,800社以上が出展するなど、drupa史上最大の規模で開催。40万人を超える来場者が見込まれています。当社ブース(ホール8b スタンドNo.A61)では、「Creating a Future in Print」をテーマに、マスマイクシオンばかりでなくパーソナライゼーションにも対応する印刷業界のパラダイムシフトに応えるため、PODを視野に入れた新たな印刷ビジネスソリューション「EQUIOSNET」コンセプトを提唱するとともに、多彩な新製品をご紹介します。

● 本件についてのお問い合わせ先

大日本スクリーン製造株式会社 メディアアンドプレジジョンテクノロジーカンパニー 管理統轄部 企画部
Tel 075-414-7610 Fax 075-417-2705 〒602-8585 京都市上京区堀川通寺之内上る4丁目